

教科指導法(体育)

科目ナンバリング ESS-312
選択 2単位

成家 篤史

1. 授業の概要(ねらい)

知識基盤社会における教育の在り方は、単に知識や技能を習得する(させる)だけではこと足りない。自己や学習対象への意味を変成させ続ける「学び」が求められてきている。教科体育においても同様で、自己や他者やモノとの関係の中で、運動の意味を立ち上げ、変成させ続けていくプロセスの中で技能や知識、社会性といったことを身に付けていくことが求められている。このような体育の学びを保証する授業づくりについて理論的に学ぶことを本授業の目的とする。

2. 授業の到達目標

- ・運動の意味生成を大切にした体育科の学習プランを作成することができる。
- ・学習プランに基づいて模擬授業を行うことができる。
- ・指導者、学習者、参観者の視点からお互いの授業を分析することができる。
- ・学習指導要領と模擬授業実践経験から体育科における望ましい学習指導の在り方を考察できる。

3. 成績評価の方法および基準

- ・授業中の活動(関心・意欲・態度40%)
- ・模擬授業(態度・知識・思考・判断・技能30%)
- ・省察的・総括的レポート(知識・思考・判断30%)

4. 教科書・参考文献

教科書

成家篤史・石塚諭・阿部隆行・大熊誠二 (仮称)『ビジネスのハイパフォーマンスは「体育」が教えてくれる!』 大学教育出版

文部科学省 『小学校学習指導要領解説(体育編)』 東洋館出版社

参考文献

『小学校教師の専門性育成』 現代図書

5. 準備学修の内容

全受講生が模擬授業を実施するため、その授業準備を入念に行う必要がある。また、同学の士による模擬授業においては評価者となるため、授業分析に関する知識を身につけておく必要がある。

6. その他履修上の注意事項

体育は、得手不得手が顕在化する教科である。また、運動会や校庭での授業等、公開性の高い教科でもある。「苦手な子も得意な子も高め合える」体育の在り方を共に探究したいと考えている。そのような体育授業にとって不可欠なことに「教師のやる気」がある。得手不得手に関わらず教師になるための重要な資質である「やる気」をもって参加してほしい。

なお、実技中心の授業のため、けがには十分に注意すること。また、毎回、その運動に適した服装に着替えて集合し、貴重品の管理は各自が責任をもって行うこと。

教室変更の掲示はしないので、事前の指示をしっかりと聞いておくこと。

7. 授業内容

- | | |
|--------|-----------------------------------|
| 【第1回】 | 本授業の進め方 ー体育科への社会的展望ー
グループワーク |
| 【第2回】 | 実技・講義(体づくり運動)目標と内容、学び方
グループワーク |
| 【第3回】 | 演習(体ほぐしの運動の模擬授業)
グループワーク |
| 【第4回】 | 演習(多様な動きをつくる運動の模擬授業)
グループワーク |
| 【第5回】 | 実技・講義(器械運動)目標と内容、学び方
グループワーク |
| 【第6回】 | 演習(器械運動の模擬授業)
グループワーク |
| 【第7回】 | 実技・講義(陸上運動)目標と内容、学び方
グループワーク |
| 【第8回】 | 演習(陸上運動の模擬授業)
グループワーク |
| 【第9回】 | 実技・講義(ボール運動)目標と内容、学び方
グループワーク |
| 【第10回】 | 演習(〇〇型ボール運動の模擬授業1)
グループワーク |
| 【第11回】 | 演習(〇〇型ボール運動の模擬授業2)
グループワーク |
| 【第12回】 | 実技(水泳)目標と内容、学び方
グループワーク |
| 【第13回】 | 演習(水泳の模擬授業)
グループワーク |
| 【第14回】 | 講義(保健)目標と内容、学び方 *前期・後期【オンライン授業】 |
| 【第15回】 | 演習(保健の模擬授業)
グループワーク |